

日本産 *PROTAETIA* 属の種に就いて (I)

八 幡 英 夫

SYNONYMIC NOTES ON JAPANESE SPECIES BELONGING
TO THE GENUS *PROTAETIA* (I)

By HIDEO YAWATA

ハナムグリ類 *Cetoniides* は頗る變異性に富む一團で、殊に *Protaetia* 属に於ては此の傾向が特に著しく、古來多くの學者に依り研究せられつゝも分類學的誤謬が繰返され、今日も尙極通種の正確なる種名の決定にさへ苦しんで居る現状である。此の點に鑑み、筆者は此の一團に普關して若干の調査を試みたので、此處にその一端を公にする次第である。

小稿を草するに當り、御教導と御校閲の勞を取られた農學博士石井悌先生、並びに材料の御提供に與つた荒木東次氏及其他の各位に萬腔の謝意を表する。

I. 汎稱的意味に於ける *Protaetia* 属

本稿に謂ふ *Protaetia* は從來の分類様式に於ける小範圍の *Protaetia* ではなく、1913 年 ARROW¹⁾ 氏の提唱せる汎稱的の *Protaetia*、即ち *Potosia* MULSANT, *Liocola* THOMSON, *Pyropotosia* REITTER, *Protaetia* BURMEISTER, の 4 属を打つて一丸とした属である。

蓋し從來の分類は餘りに JORDANONT 的に過ぎて實際には反つて分類學的秩序を混亂する様な傾向があつた。例へば雄性のみに適用せられるべき特徴を以て (例へば *Liocola* の特徴として雄の腹部縦溝を擧げるが如き)、その属の唯一の特異性となすが如きは、その雌の隸すべき属の決定に困難を來し、實際問題としては妥當性を缺いてゐる様に思はれる。

II. *Protaetia* 属に就いてGenus *Protaetia* BURMEISTER シラホシハナムグリ属²⁾

Protaetia BURMEISTER, Handb. Ent., III, P. 472 (1842); SCHENKLING, Col. Cat., LXXII, P. 251 (1921)

= *Eumimimetica* KRAATZ, Deutsche Ent. Zeitschr., XXV, p. 264 (1881) (pars)

= *Poecilophana* KRAATZ, Deutsche Ent. Zeitschr., p. 285 (1895)

= *Protaetia* REITTER, Best.-Tab., XXXVIII, pp. 26, 44 (1898)

= *Protaetiophana* HELL., Abh. Mus. Dresden, VI, nr. 3 (1896)

= *Pseudanthracophora* KRAATZ, Deutsche Ent. Zeitschr., p. 407 (1898); ARROW, Ann. Mag. Nat. Hist., (8), XII, p. 406 (1913)

1) Ann. Mag. Nat. Hist. (8). XII, P. 406, (1913)

2) 本属は從來ハイイロハナムグリ属と呼稱せられてゐたが、4 属合併の結果、之をシラホシハナムグリ属に改稱した。

= *Liocola* THOMSON, Skand, Col., I, p. 77 (1859)

= *Potosia* MULSANT, Col. France, Lamell., Ed. 2, p. 669 (1871)

= *Pyropotosia* REITTER, Vesh. Nat. Ver. Brünn, XXXVII, pp. 44, 63 (1898); 新島・木下, 北大農學部演習林研究報告 II, 2, p. 176 (1923)

Cetonia 屬に酷似するが、一般により大型で、中胸突起は扁平、前端は巾広い。頭部は長方形にして側縁より前縁にかけて軽く上反する。前胸脊は側縁の略中央にて稍角状をなし、前方にて急に狭まり、その後縁は稜狀板の前にて矢筈形を呈し、中央に極めて疎に側縁に密に點刻を裝ふ。前胸脊は一般に若干の白斑を有する。稜狀板は長 3 角形にしてその先端は尖らず、亦點刻を缺く。翅鞘は側縁に於て基部近く彎曲狀の切込を有する。2 條の縱隆線は明瞭。會合線の兩側の先端に近く凹陷部を有し、此の部分の點刻は殊に密である。翅鞘は中央に疎に、側縁に近く網目狀に點刻を裝ひ、若干の白斑を有する。背面は一般に毛を有せず、平滑にして光澤を現はす。尾節板は略 3 角形乃至半圓形、網目狀の點刻あり、先端に毛を有する。普通雄の夫れは先端圓く隆起し、雌の夫れは兩側少しく窪む。前脛節外齒は通常 3 箇、後脛節には 2 箇の端棘を有する。腿節及脛節に黃褐色の毛を用する。

III. 日本産 *Protaetia* 屬の諸種

日本産 *Protaetia* の種を年代順に示せば、次の如くである。尤も記載の * 印を附したものは産否の甚だ疑しい種で、本稿には之を省く事とした。

1. <i>fusca</i> HERBST	ハイイロハナムグリ (改稱)	(1790)
*2. <i>speculifera</i> SWARTZ	ミドリハナムグリ	(1817)
3. <i>orientalis</i> GORY et PERCHERON	シロテンハナムグリ (改稱)	(1833)
*4. <i>ferruginea</i> GORY et PERCHERON	アカハナムグリ	(1833)
*5. <i>guerini</i> EYDOUX	グエリンハナムグリ	(1839)
6. <i>lenzi</i> HAROLD	キョウトアラハナムグリ	(1876)
7. <i>brevitarsis</i> LEWIS	シラホシハナムグリ	(1879)
8. <i>insperata</i> LEWIS	ムラサキオホハナムグリ	(1879)
9. <i>culta</i> WATERHOUSE	カバイロハナムグリ	(1879)
10. <i>famelica</i> JANSON	シナハナムグリ	(1879)
subsp. <i>amurensis</i> HEYDEN		(1886)
11. <i>pryeri</i> JANSON	リウキウハナムグリ	(1888)
12. <i>lewisi</i> JANSON	オホリウキウハナムグリ	(1888)
13. <i>exasperata</i> FAIRMAIRE	オホシマハナムグリ	(1898)
14. <i>ishigakia</i> FAIRMAIRE	イシガキハナムグリ	(1898)
15. <i>formosana</i> MOSER	タイワンシラホシハナムグリ	(1910)
16. <i>inquinata</i> MOSER	タイワンシロテンハナムグリ	(1910)
17. <i>spinosa</i> MOSER	トゲハナムグリ	(1911)
18. <i>purpureipes</i> MATSUMURA	カラフトハナムグリ	(1911)
19. <i>cataphracta</i> ARROW	ムラサキツヤハナムグリ (新稱)	(1913)

- | | | |
|--|--------------|--------|
| 20. <i>scutigeri</i> MOSER | コンイロハナムグリ | (1915) |
| 21. <i>miyakoensis</i> NIJIMA et KINOSHITA | ミヤコハナムグリ | (1923) |
| 22. <i>elegans</i> KOMETANI | ナカバヤシツヤハナムグリ | (1938) |

以上の中 *speculifera* は 1923 年、新島、木下兩氏がミドリハナムグリなる和名を與へて發表して以來、屢々各地の採集記録に現れてゐるが、新島、木下兩氏の取扱はれた標本を始めとしてその後發表されたものは、何れも *orientalis* の綠色型を誤認したもので、新島、木下兩氏の *speculifera* の記載及圖版（北大演習林報告）は明かに *orientalis* を示すに外ならない。眞の *speculifera* は Kaschmiya, Himalaya, China に産するが本邦には産せず、此の事は 1887 年 LEWIS³⁾ 氏が既に指摘してゐる通りである。即ち同氏は *Cetonia confusiusana* THOMSON の項に於て次の如く記して居る。

“I. *Cetonia confusiusana* THOMS.

Cetonia confusiusana, THOMS. Typi Cetonididiam, p. 28 (1878)

The pygidium in the male is reflexed at the apex and very convex, and resembles a boss in form; but the female is only transversely impressed, somewhat unevenly on both sides. In colour this species varies from a deep crimson to bronze and green, and is very common in S. Japan, but I did not find it in Yezo.

I believe that the brighter examples have been mistaken for *C. speculifera*, Swartz, which has been hitherto only found in China and the Philippine Islands.”

上文より明かな如く、LEWIS 氏の *confusiusana* の特徴は全く *orientalis* に一致し、また SCHENKLING 氏は本種を *aerata* (= *orientalis*) の亞種として採用してゐる點から推しても此の事實は明かである。尙 ARROW 氏の日本産金龜子蟲の目録 (1913) には、*speculifera* は省かれてゐる。

IV. 内地産の 6 種に就いて

實用的見地からみて、内地産の諸種は、他の地域の夫れとは別個に取扱つた方が便宜と思はれるので、本報に於ては内地産 6 種に關する報告に留め、全體の檢索表及殘餘の種の報告は次報に譲りたいと思ふ。

内地に産するものは次の 6 種である。

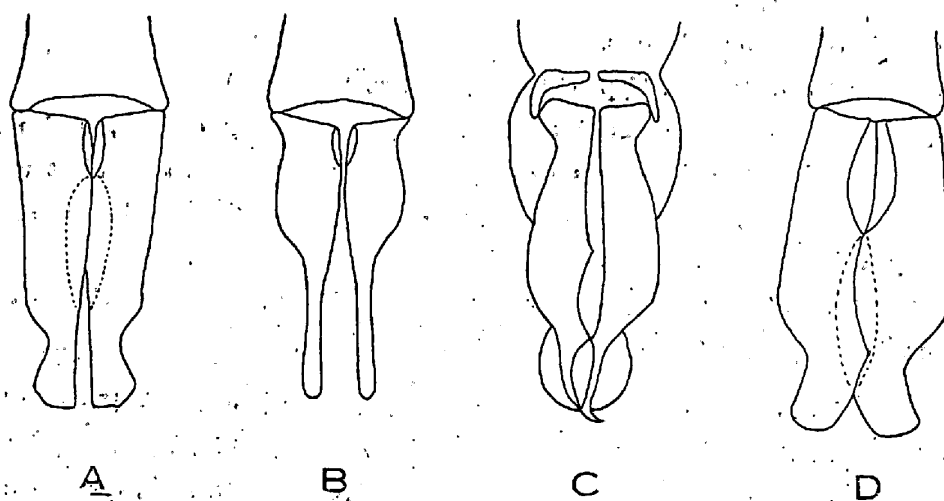
- | | |
|--|---|
| 1. <i>brevitarsis</i> LEWIS | 2. <i>insperata</i> LEWIS |
| 3. <i>orientalis</i> GORY et PERCHERON | 4. <i>lenzi</i> HAROLD |
| 5. <i>cataphracta</i> ARROW | 6. <i>miyakoensis</i> NIJIMA et KINOSHITA |

以上の内 *miyakoensis* の標本は遺憾ながら入手出来なかつたので、之を除き他の 5 種の檢索表を次に掲げる。

1. 體背面は點刻少く平滑なり。……3, 4.
2. 體背面は一樣に點刻を裝ふ。……5, 6.

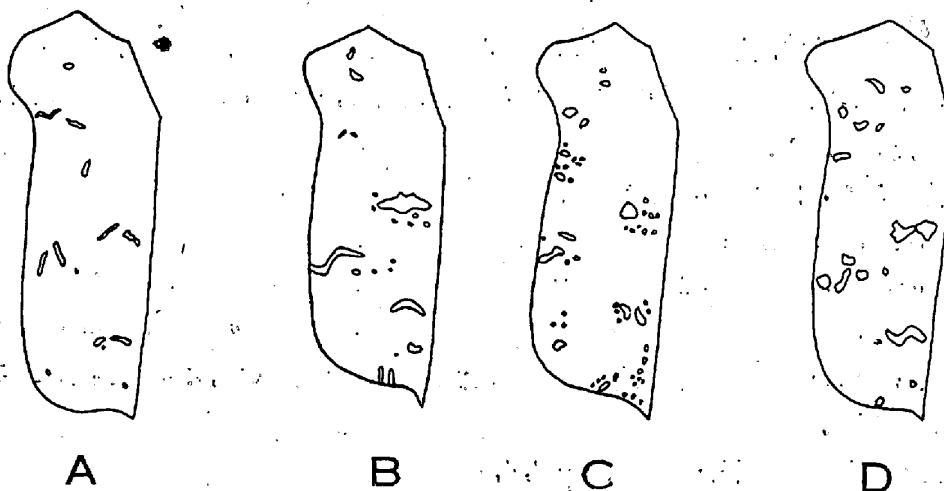
3) Ann. Mag. Nat. Hist., (5), XIX, p. 198 (1887)

3. 體色は紫銅色のみ，尾節板は斜に突出し，點刻稍多く，白斑は明らかなり。
.....*cataphracta* ARROW
4. 體色は紫銅，青銅，銅褐色。尾節板は垂直に下向，點刻殆んどなく，白斑極めて細し。
.....*insperata* LEWIS
5. 前胸背巾極めて狭く，♂♀ 色彩を異にす。.....*lenzi* HAROLD
6. 前胸背巾狭からず，♂♀ 同色なり。.....7, 8.
7. 體は方形，黒銅色，會合線先端稍突出す。白斑はへの字狀乃至集點狀。
.....*brevitarsis* LEWIS.
8. 體は長方形，色彩は變異多く，紫，綠，褐色の別あり，白斑は點狀にして散在し，會合線の先端突出せず。.....*orientalis* GORY et PERCHERON



第1圖 内地産 *Protactia* 屬の雄交尾器

A. *P. insperata* B. *P. brevitarsis* C. *P. orientalis* D. *P. cataphracta*



第2圖 内地産 *Protactia* 屬の左翅鞘上の斑紋

A. *P. insperata* B. *P. brevitarsis* C. *P. orientalis* D. *P. cataphracta*

1. *Protaetia Lenzi* HAROLD キョウトアラハナムグリ

Abh. Nat. Ver. Bremen, V, p. 128 (*Cetonia*) (1876)

HEYDEN, Deutsche Ent. Zeitschr., XXIII, 2, p. 347 (1879)

LEWIS, Ann. Mag. Nat. Hist., XIX, (5), p. 198 (1887)

= *P. hondana* ARROW Ann. Mag. Nat. Hist., XII, (8), p. 404 (1913)

= *Potosia nitidiscutellata*, NIJIMA et KINOSHITA, 北大農学部演習林研究報告 II, 2, pp. 174, 234, Pl. V. f. 2; Pl. VII, f. 18, (1923); 加藤, 原色日本昆蟲圖鑑, 8, Pl. 12, f. 1, (1933); 平山, 續原色千種昆蟲圖鑑, Pl. 64, f. 7, (1937); 米谷, 昆蟲界, VI, 47, p. 14, (1938), 今西, 關西昆蟲雜誌, V, 1, p. 33, Pl. 3, (1938); 同誌, V, 3, p. 19, (1939)

本種は従来 *Potosia nitidiscutellata* NIJIMA et KINOSHITA として取扱はれて來たが, 最近今西芳之氏の研究に依り此の學名が, *Protaetia hondana* ARROW (1913) の Synonym であり, 且 *hondana* は *Protaetia lenzi* HAROLD (1876) の雄に對して與へられた Synonym である事が飼育の結果明かにせられた。本種は屢々充分な記載が公にせられてゐる故, 記載は省略する事にするが, LEWIS 氏は次の如く記してゐる。

"The abdomen in this species is raised longitudinally in the centre, and is thus devided into two equall parts; the pygidium is the same as in *brevitarsis* and *insperata*. I obtained six specimens in June at Kioto."

HEYDEN 氏は次の如く述べてゐる。

"Ein mit der Beschreibung bei HAROLD (Adh. Bremen., 1876, p. 128) vollkommen übereinstimmendes ♀, woher auch das einzige seither bekannte, von Lenz gefundene ♀ stammt."

分布 北海道(?)・本州・四國・九州(種子島)

2. *Protaetia orientalis* GORY et PERCHERON シロテンハナムグリ (改稱)

Mon. Cet., pp. 57, 193, t. 34, f. 6 (1833) (*Cetonia*); BLANCHARD, Cat. Col. Paris, p. 5 (1850)

= *confusiusana*, LEWIS, Ann. Mag. Nat. Hist., (5), XIX, p. 198 (1887) (*Cetonia*); ARROW, Fauna of Brit. India, I, p. 143 (1910): Ann. Mag. Nat. Hist., (8), XII, pp. 396, 406 (1913)

= *submarmorea*, BURMEISTER, Handb. Ent., p. 472 (1842); SCHENKLING, Col. Cat. LXII, p. 259 (1921)

= *aerata*, ERICHSON, Nova Acta Halle, XVI, Suppl. p. 240, (1834) (*Cetonia*)

= *Potosia aerata*, OKAMOTO, Bull. Agr. Exp. Sta., Gov.—Gen. Chosen I, 2, p. 180 (1924)

= *brevitarsis*, (nec LEWIS), 松村, 日本千蟲圖解第三, p. 85, Pl. 47, f. 11, (1906); 松村, 日本昆蟲大圖鑑, p. 315, Pl. 1084 (1931); 横山, 日本の甲蟲, p. 87, Pl. 10, f. 13 (1930); 神谷, 安立, 甲蟲圖譜, Pl. 52, f. 1 (1933); 加藤, 原色日本昆蟲圖鑑, Pl. 16, f. 8, 9, (1933); 平山, 原色千種昆蟲圖譜, Pl. 63, f. 4, (1933); 渡邊, 森林動物相調査報告, I, Melolonthidae, p. 88, Pl. 22, f. 46 (1937)

Potosia aerata, NIJIMA et KINOSHITA, 北大演習林研究報告, II, 2, p. 172, Pl. V. f. 20 (1923)

= *Liocola speculifera* (nec SWARTZ), 新島, 木下, 北大演習林研究報告, II, 2, p. 169, Pl. V. f. 6, (1923); 加藤, 原色日本昆蟲圖鑑, Pl. 12, f. 2, Pl. 16, f. 10, (1933); 昆蟲界, VIII, 80, p. 713, Pl. 1, f. 5 (1940)

所謂シロテンハナムグリには従来 *Potosia aerata* ERICHSON なる學名が與へられたが, ARROW

氏は之を *Protactia orientalis* のシノニムとした。而して従來 *orientalis* に對してはコウノハナムグリなる和名が與へられて居る。然しながら和名としてはコウノハナムグリよりもシロテンハナムグリの方が妥當であると考へたので、此の際改稱する事にする。

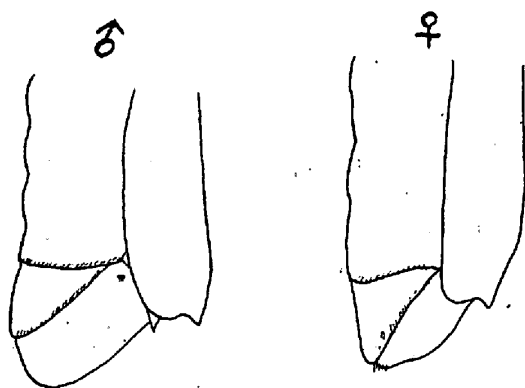
本種は體の色澤の變化が極めて著しいが、概ね銅褐、銅綠、銅紫色の3系統に分ち得る。しかし之等は更に混合して複雑なる色彩を現す。體長も變化に富み、大なるは 25 mm. 以上、小なるは 20 mm. 以下で、體は一般に肥厚して、長形である。

頭 部 粗大で浅い點刻を有し、長形。頭楯は側縁より前縁にかけて上反し、前縁中央は明かに凹入して2片狀を呈す。

前胸背 中央部は概ね平滑で、側縁に向ひ次第に圓形の粗且つ深い點刻を裝ひ、「へ」字狀乃至棒狀の點刻となり、側縁に至つて互に癒着する。側方は鈍角をなし、前方に至り急に狭まる。後縁角は適度に突出し、中央部は稜狀板に依つて切除される。稜狀板に近く2箇の窪みある白斑の外、數箇の白點を有する。

稜狀板 長三角形にして、前縁部に極めて微細な點刻群を認めうる外、全く平滑である。

翅 鞘 會合線に近く、2, 3 列の圓形の點刻のある外は、概ね半圓乃至「へ」字狀點刻に



第 3 圖 *P. orientalis* 尾節板。

て強く點刻される。側縁部は「へ」字狀點刻が結合して網目狀をなす。點狀乃至集點狀の無數の白斑を有するが、點の位置は極めて變化が多い。會合線の先端は突起著しからず。

尾節板 横皺狀の點刻にて裝はれその上に小數の白斑を有する。斜に突出し、背面より見れば翅端より突出してゐる。周縁には黄褐毛を有する。

・ **體 下** 背面と同色、胸節、腿節、脛節には黄褐毛を有する。中胸突起は横に扁平な廣楕圓形を呈する。前脛節には3齒を有するも、雄

のそれは最上齒が小型であるか、又は全く之を缺く。雄の後附節は雌のそれよりも明かに長い。

性 徴 雄：先端に近く著しく圓く隆起す。

雌：兩側壓凹せられ、中央縦に光澤ある隆起をなす。

體 長 17/9 mm. ~ 27/14 mm. (/ の右側は體幅、左側は體長を示す。以下之に準ず)

産 地 青森(高野山), 秋田, 盛岡, 山形(新庄), 宮城(女川), 東京, 大阪, 神戸, 鹿兒島, 長野(洗馬), 香川(多度津), 高知, 濟洲島[岡本博士], 八丈島[加藤氏], 福岡(英彦山, 若杉山), 對馬。

分 布 本州, 四國, 九州, 臺灣, 朝鮮。

本種は色彩に變異が多いが、銅紫色型は關東以北には極めて稀にして、關西、四國に多く、地域的に、體色の變化に差異の認められるのは面白い現象と思ふ。高松市の坂口清一氏より贈られた該地産の各色型別頭數は次の如くである。

銅紫色型……6頭(♂4, ♀2)	銅綠色型……16頭(♂12, ♀4)	} 56頭(♂38, ♀18)
銅褐色型……21頭(♂17, ♀4)	銅綠褐色型……13頭(♂5, ♀8)	

京大所蔵の故 J. E. A. LEWIS 氏の標本中には、ARROW 氏の同定になる *orientalis* の標本が数頭あり、その中頭楯が 2 片状を呈せざる種に “Compare clypeus” なるラベルを附して區別してあるが、之は氏が元來頭楯の形狀に重點を置きすぎる結果で（同氏の東洋の *Protaetia* 属の検索表は先づ、頭楯の 2 片状を呈するものと而らざるものとに二大別してゐる）、何等別種として別つべき特徴ではなく、單に個體變異にすぎないと考へられる。

3. *Protaetia brevitarsis* LEWIS シラホシハナムグリ

Ann. Mag. Nat. Hist., (5), IV, p. 463 (1879) (*Cetonia*); LEWIS, Ann. Mag. Nat. Hist., (5), XIX, p. 198 (1887) (*Cetonia*); KRAATZ, Deutsch Ent. Zeitschr., XXVII, S. 10 (1883); FAIRM, Rev. d'Ent., p. 320 (1887); ARROW, Ann. Mag. Nat. Hist., (8), XII, pp. 396, 406 (1913); SCHENKLING, Col. Cat., LXII, p. 221, (1921); OKAMOTO, Bull. Agr. Ent. Sta. Gor.-Gen. Chosen, I, 2, p. 179 (1924); 加藤, 原色日本昆蟲圖鑑, 8, Pl. 16, f. 7, (1933)

本種は久しい間、*P. orientalis* と混同せられてゐた。新島、木下兩氏が *Liocola brevitarsis* なる學名の下に北大演習林報告中に述べた種は記載及交尾器より見れば、明かに眞の *brevitarsis* ではなく、兩氏の述べてゐるのは *cataphracta* と *orientalis* を含んだものを指して居られ、圖版の交尾器は明かに *cataphracta* のものである。兩氏は又、var. *seulensis* KOLBE テウセンシラホシハナムグリの項に “雄交尾器ノ形モ基種ヨリ著シク細キモ其構造相似ルヲ以テ産地ニ由ル變化ト見做スベキカ” と述べられてあるが、之は兩氏の述べてゐる基種たる *brevitarsis* が *cataphracta* を指してゐる結果に外ならず（第 1 圖から明瞭の様に眞の *brevitarsis* の交尾器は、*cataphracta* のそれに比し著しく細い）、眞の *brevitarsis* の交尾器は内地のものも朝鮮満洲のものも全く同一である。

又本種には、支那満洲産のものに、主として KRAATZ 氏に依つて與へられた多くの變種があるが、之等は、何れも内地には産しない。内地に産するものは原種のみである。内地よりの録された var. *viridis* KRAATZ アラシラホシハナムグリ及 var. *crassa* HAROLD コシラホシハナムグリの記録は、何れも誤りである。また朝鮮産 var. *seulensis* KOLBE テウセンシラホシハナムグリは恐らく var. *crassa* HAROLD のシノニムであらう。

本種は *orientalis* に比して一層方形に近い。色彩の變異は少く、黒銅色に紫色光澤を有するか、或は黒紫色を呈する。

頭部 *orientalis* よりも一層微細なる點刻を密布し、中央部は稍隆起す。頭楯の前縁輕く上反するも中央は彎入する事なし。

前胸背 側縁部はゆるやかなる弧を描き、一樣に縁取らる。前縁の中央は隆起し瘤狀を呈す。中央部は平滑、他は大型の圓形點刻を裝ひ、側縁部の點刻は棒狀を呈する。黄白色の比較的鮮明な窪みある四箇の白斑を有する。

稜狀板 長 3 角形、先端尖らず、前縁に極めて微細な點刻を有する外、全く點刻を缺く。

翅鞘 稜狀板の附近には大形の點刻を極めて粗く不規則に裝ふ。會合縁の兩側縁部は、凹陷部を除いて點刻は弱く粗、凹陷部には半圓形の點刻を密に裝ふ。縦隆線明瞭、凹陷部は *orientalis* よりも明瞭なり。側縁部の點刻は網目狀を呈する。會合線に近く 2 對、側縁に近く 1 對の棒狀乃至「へ」字狀の白斑を、肩部、翅端に若干の白斑乃至白斑群を認め得る。會合線の先端は著しく突出する。

尾節板 略垂直に下向し、背面よりみれば翅端下に隠る。網目狀點刻を密布し、通常 2 條の白斑列を明かに認め得、短剛毛を装ふ。

體 下 背面と同色、腹節の白斑は明瞭、脚は *orientalis* 及その他のものより短く肥厚す。後脛節は僅かに内側に彎曲し 2 箇の端棘は頑健。

性 徴 雄： 稍幅廣き深い腹溝を有す。

雌： 腹溝を缺く。

體 長 20/10 mm. ~ 28/14 mm.

産 地 Nagasaki, Korea, Kioto [LEWIS 氏] 濟洲島[岡本博士], 長野(洗馬), 山形(新庄), 東京, 大阪(妙見, 待兼), 山梨(天目山), 香川(多度津), 宮城(新村), 大分(祖母山), 北海道(夕張?)

分 布 北海道(?), 本州, 四國, 九州, 朝鮮。

本種は *orientalis* に酷似するが、次の諸點に依り區別し得る。

1. 頭楯の前縁軽く上反するが、彎入し、2 片狀を呈する事なし。
2. 體は概ね方形を呈する。
3. 背面の斑紋は棒狀、「へ」字狀乃至集點狀。
4. 會合線先端の著しく突出すること。
5. 前胸背前縁中央隆起して瘤狀を呈する。
6. 尾節板は垂直に下向し、上面よりみて翅端に隠れる。
7. 體色は黒紫色乃至黒銅色なる事。
8. 背面の點刻はより弱く、小型にして疎なる事。
9. 跗節は短く肥厚してゐる事。
10. 雄は腹溝を有する事。

4. *Protaetia cataphracta* ARROW ムラサキツヤハナムグリ (新稱)

Ann. Mag. Nat. Hist., (8), IX, pp. 405, 407 (1913)

= *Cetonia submarmorea* (nec BURMEISTER), WATERHOUSE, Trans. Ent. Soc. Lond., p. 114 (1875);

LEWIS, Ann. Mag. Nat., Hist. XIX, (5), p. 198 (1887)

= *Liocola brevitarsis*, (nec LEWIS) 新島, 木下, 北大演習林研究報告, II, 2, p. 165, Pl. VII, f. 14 (1923); 新島, 日本昆蟲圖鑑, p. 504, f. 981 (1932); 加藤, 昆蟲界, V, 43, p. 22 (1937)

= *Liocola* sp., 加藤, 分類原色日本昆蟲圖鑑, 8, Pl. 16, f. 12 (1933)

WATERHOUSE (1875) 及 LEWIS (1887) 兩氏が *Cetonia submarmorea* と同定したものは明かに同種ではなかつた。REITTER 氏は LEWIS 氏の同定した *submarmorea* は *Potosia aerata* ERICHSON の誤りなりとしたが、之は明かに REITTER 氏の誤謬で、之は LEWIS 氏が *submarmorea* を記載するに際し “The male of this species has an abdominal groove” と記してをり、所謂 *Potosia aerata* (= *orientalis*) は abdominal groove を缺いてゐるから、此の誤は事實に徴して明瞭である。BURMEISTER (1842) 氏の發表した眞の *submarmorea* は歐洲の *marmorata* FBR. に似た形態を有し、SCHENEKLING 氏に依り *Potosia aerata* の異常型とされ従つて *P. orientalis* と見て差支へないものである。

ARROW 氏は、WATERHOUSE 氏及 LEWIS 氏の誤認した *submarmorea* に對し、新に *cataphracta* なる學名を與へて發表してゐる。

本種は體細長く、背面下面共強い光澤ある黒紫色を呈し、色彩には變異はない。體型は *orientalis* に酷似する。

頭 部 長方形にして、圓形大型の點刻を粗布する。頭楯の前縁は軽く上反し、2 片狀を呈せず。眼は黒色、大型にして突出する。

前胸背 形状 *orientalis* に酷似し、側縁は角度をなして彎曲す。中央に疎に側縁に大型の密なる點刻を有する。側縁の棒狀點刻は他種よりも幾分少く、他に鮮明ならざるも若干の小白斑を有する。

稜狀板 長 3 角形にして先端尖らず、點刻を全く缺き平滑。

翅鞘 點刻は少く、殊に稜狀板附近は極めて疎にして、強い光澤を現す。稜狀板附近には小圓點刻を極めて疎に装ふが、凹陷部、側縁部其他はすべて馬蹄形の點刻を有する。側縁部の點刻は他種の如く密着せず、比較的分離して顯著。會合線附近に 2 對、側縁部に 1 對の細い棒狀白斑、他に若干の小白斑を有する。翅鞘の側縁は翅端に近く急に狹まる。

尾節板 横皺狀點刻を有し、稍斜に突出、背面よりみて翅端外に突出する。3 角形を呈せず、頂角は圓味を帯びて半圓狀を呈す。雌、雄共著しく膨起する事なし。

體下 背面と同色にして強い光澤あり、腹節に白斑を缺く。胸節及脛節には黄色毛を認め得。雄の腹溝は深く細長し。

性徴 雄：腹溝を有す。

雌：腹溝を缺く。尾節板の先端の兩側は壓縮せられたるが如く凹む。

體長 22/11 mm. ~ 26/13 mm.

產地 N. JAPAN, Nikko, L. Junsai, Fusai, Usvi Pass. [ARROW], 岩手(盛岡), 山形(新庄, 米澤), 東京(九段, 玉川), 長野(洗馬), 大阪(箕面, 妙見, 久安寺川), 鳥取(大山), 札幌(圓山公園 4. VI. 1940, ♀ 1), 高松(10. VII. 1940, ♀ 1)

分布 本州, 四國(未記録), 北海道(未記録)

本種は外觀 *orientalis* に酷似するが、次の諸點に依り區別し得る。

1. 體は上・下面とも、強い光澤ある黒紫色を呈する。
2. 背面の點刻及斑紋は本種に於てより少く、弱く、平滑なる感を與へること。(稜狀板附近には殊に少し)
3. 體は細長にして、翅鞘の側縁は翅端に近く、急に狹まる。
4. 頭楯の前縁は 2 片狀を呈せず。
5. 體の下面も光澤強く腹節の白斑は極めて細いか或は全く之を缺く事。
6. 尾節板は先端尖らず、半圓形を呈する。
7. 雄は腹溝を有する。

5. *Protaetia insperata* LEWIS ムラサキオホハナムグリ

Ann. Mag. Nat. Hist., (5), IV, p. 463 (1879)

LEWIS, Ann. Mag. Nat. Hist., (5), XIX, p. 198 (1887); REITTER, Best.—Tab. (38), p. 47 (1898);

ARROW, Ann. Mag. Nat. Hist., (8), XII, p. 596, 406, (1913); MATSUMURA, Journ. Col. Agr. Tohoku. Imp. Univ., Sapporo, IV, p. 119 (1911); 横山, 鹿野, 動物學雜誌, XXXIX, 459, p. 38, (1927); 新島, 木下, 北大演習林研究報告, II, 2, p. 168, Pl. V, f. 5 (1923); 江崎, 安松, 原色日本昆蟲圖説, Pl. 144, f. 562, (1939)

本種は體の點刻極めて少く、且翅鞘の白斑は極めて細く、強い光澤を有する點を以て、一見容易に他種と區別し得る。銅褐色, 青銅色, 紫銅色を呈する。

頭部 長形, 圓形の點刻を中央部に疎に周縁に密に有する。頭楯の前縁は軽く上反するも、側縁の隆起は極めて微弱、前縁の中央は彎入せず。

前胸背 側縁の略中央は稍角度をなす。形状は *brevitarsis* に似る。側縁部の點刻は大型に

して圓形或は棒狀、集合して網目狀を呈し、中央殆ど平滑にして光澤を帶ぶ。側縁は略中央迄縁取られ、前半消失す。4 箇の白斑は明かではないが、窪みあるものあり、或は全く之を缺く。

稜狀板 長 3 角形、先端は尖らず。平滑にして點刻を缺き、強い光澤を有する。

翅鞘 點刻は極めて少く平滑にして、強い光澤あり。稜狀板附近は點刻を全く缺く。凹陷部、側縁部に馬蹄形の點刻を認めうる外、點刻は少く又極めて浅く弱し。側縁の點刻も他種の如く強く密着する事なく、極めて弱く疎に散在する。翅鞘の後縁の外角に近く網目狀の點刻あり。白斑は極めて細く、棒狀乃至細點狀を呈する。

尾節板 微細な網目狀點刻を有し、半圓形にして、背面より見れば、翅鞘端に隠れる。小白斑を散在する。

體 下 背面と同色か、或は多少紫色を呈する。脚も同様。腹節の兩側には白斑を缺く。胸節、脛節には黄褐毛を有するが脛節の夫れは往々脱落し易い。雄の腹溝は浅く、時に點狀を呈するのみの事あり。

性 徴 雄： 浅く幅廣き腹溝を有する。

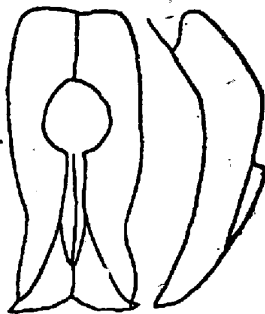
雌： 腹溝を缺き、尾節板の先端の兩側は壓縮されたるが如く窪む。

體 長 20/11 mm. ~ 23/12.5 mm.

産 地 Yezo, Vries Island, Chiuzenji, Nikko, Wada-Toge [LEWIS 氏], Sachalin [松村氏], 北海道(層雲峽, 夕張, 定山溪), 樺太(豊原, 突祖山), 長野(岩魚留), 鳥取(大山)。

分 布 樺太, 北海道, 本州, 九州。

本種は稍北地系の昆蟲である。背面の點刻は少く、白斑は細く、側縁の點刻の弱くかつ結合してゐない事、等一見判然した特徴を持つてゐるから他種との識別は容易である。新島、木下兩氏は本種の後脛節に毛列を缺く事を以つて種の特徴としたが、之は誤であつて、筆者は毛列を有する個體も多數檢し得た。但し他種に比し視落し易い事は事實である。本種は一見歐洲の *marmorata* FBR. に酷似してゐるが、後者は白斑がより一層密である。尙樺太産の本種は綠色型が多く、北海道、本州産のものには銅褐色型が多い。



第4圖 *P. miyakoensis* の雄交尾器 (新島・木下氏原圖)。

6. *Protaetia miyakoensis* NIJIMA et KINOSHITA

ミヤコハナムグリ

北大演習林研究報告, II, 2, pp. 170, 233, Pl. II, f. 6, Pl. V, f. 14, Pl. VII, f. 17. (*Liocola*)

筆者は残念ながら、新島・木下兩氏の記載に當嵌る標本を檢し得なかつた。平山氏原色甲蟲圖譜 Pl. 24, f. 2 に圖示されてゐるものは *Pr. lewisi* JANSON の小型種である。加藤氏の圖譜(原色昆蟲圖鑑 VIII, Pl. 22, f. 12) に出てゐるものは未だ檢してゐないので確言出来ない。